

科目	応用倫理学 (Applied Ethics)		
担当教員	手代木 陽		
対象学年等	応用化学専攻・2年・前期・選択・2単位		
学習・教育目標	工学複合プログラム	C3(50%) D1(50%)	JABEE基準1(1) (a),(b)
授業の概要と方針	現代の科学技術の諸問題には科学的解決のみならず、社会的合意が必要な倫理的問題も含まれている。この講義では生命倫理・環境倫理・情報倫理の問題を通してこうした問題の所在を理解し、自ら解決策を考える訓練をする。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】新しい科学技術の社会的応用には倫理的問題の解決が不可避であることを理解する。		生命倫理・環境倫理・情報倫理の問題を正しく理解できているか、期末試験で評価する。
2	【D1】科学技術の倫理的問題を自分の生き方の問題として考え、自分の意見を矛盾なく展開できる。		生命倫理・環境倫理・情報倫理の問題について、自分の意見を矛盾なく展開できるか、期末試験および毎回授業で課すレポートで評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	期末試験成績50%、毎回授業で課すレポート50%。それ以外に自主的に提出されたレポートについては、これらの成績にさらに適宜加点する。		
テキスト	なし		
参考書	「人間論の21世紀的課題 応用倫理学の試練」：石崎・山内編（ナカニシヤ出版）		
関連科目			
履修上の注意事項	なし		

授業計画 1 (応用倫理学)

週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	応用倫理学とは？	応用倫理学と従来の倫理学のアプローチの相違を解説し、最近起こった事件を取り上げて倫理的ジレンマを考察する。
2	人間とは？	応用倫理学の問題が「人間とは何か」という哲学的問題に集約されることを説明し、ヒトと類人猿の相違点についてビデオ教材を視聴して考える。
3	技術とは？	科学技術の問題が「人間とは何か」という哲学的問題と不可分であることを説明し、ハンス・ヨーナスの科学技術についての5つの主張を取り上げ、科学技術の楽観論、悲観論、限定論のいずれに賛成するかを考える。
4	人間の生死と技術 (1)	延命技術の進歩によって生じた積極的安楽死の問題を取り上げ、患者の自己決定権と医者の義務の関係について考える。
5	人間の生死と技術 (2)	脳死は「人の死」と言えるかという問題を、脳死臨調答申中の「死の定義」を取り上げて考える。
6	人間の生死と技術 (3)	サバイバル・ロッタリー」という架空の制度を通して、臓器移植の「最大多数の最大生存」という原理の問題点を考える。
7	人間の生死と技術 (4)	人工妊娠中絶をめぐる保守派、リベラル派、中間派の立場の相違を解説し、いずれに賛成するか考える。
8	人間の生死と技術 (5)	体外受精や代理母といった生殖医療技術が他人に危害を及ぼす可能性について考える。他人の精子を使った人工授精によって生まれた子どもの「出自を知る権利」と提供者の匿名性の問題を、ビデオ教材を視聴して考える。
9	人間の生死と技術 (6)	出生前診断やクローン技術のヒトへの応用の可能性を解説し、遺伝子技術と人間の尊厳の問題を考える。
10	人間と環境 (1)	環境問題が自由主義の原理的欠陥に起因することを「共有地の悲劇」や「囚人のジレンマ」のモデルで解説する。また地球全体主義が強権的なエコファシズムに陥る危険性を「救命艇の倫理」のモデルを通して考える。
11	人間と環境 (2)	鯨のような動物にも生存権を与える可能性について、「動物解放論」と「生態系主義」の立場から考える。
12	人間と環境 (3)	現代人は未来世代のために環境を守る義務があるという「世代間倫理」の理論的可能性について解説する。
13	人間と情報 (1)	インターネットが目指す「情報の共有」は知的財産権やプライバシー権と両立するか考える。
14	人間と情報 (2)	映像著作権の保護期間延長の問題についてビデオ教材を視聴して考える。
15	まとめ	これまでの講義を受講して、改めて科学技術の楽観論、悲観論、限定論を検討する。ディベートを行い、最後に各自の意見を発表する。
備考	中間試験を実施しない。 期末試験を実施する。	